

高山岡南雄 — 略歴と主な業績

1927 (昭和2) 年3月31日、熊本にうまれる。

旧制佐賀高等学校在籍中の1945 (昭和20) 年、長崎三菱兵器工場に動員され被爆。1948 (昭和23) 年、旧制佐賀高等学校文科卒業。上京、新協劇団に入団。

1948 (昭和23) 年から1958 (昭和33年)、八田元夫演出研究所演出部所属。この間、木下順二を中心とする若手グループ勉強会“セゾーノ”のメンバーに加わる。

'55 (訳) マガルシャック著『スタニスラフスキイ・システム』 (未来社)

'56-58 (訳) マガルシャック著『スタニスラフスキイの生涯』全3部 (未来社)

1960 (昭和35) に劇団演劇座を結成 (1970年に解散)。

'63 (演出) 演劇座 花田清輝作「爆裂弾記」

'63 (演出) 演劇座 花田清輝作「泥棒論語」

'65 (演出) 演劇集団変身 宮本研作「とべ、ここサド島だ」

'67, 68 (演出) 演劇座 秋元松代作「常陸坊海尊」

'69 (演出) 演劇座 秋元松代作「かさぶた式部考」

1972 (昭和47) 年より日本大学芸術学部で教鞭をとる。助教授、教授として演技演習、舞台総合研究、演劇教育論などを担当。四半世紀にわたり演劇学科において教育指導にあたる一方、芸術学部図書館長、芸術研究所長などを歴任。

'73 (訳) マガルシャック著『スタニスラフスキイ・システムの形成』 (未来社)

'78 (訳) ゴルチャーコフ著『ワフターンゴフの演出演技創造』 (青雲書房)

'80 (共訳) ヘスマン著『リー・ストラスバーグとアクターズ・スタジオの俳優たち』 (劇書房)

この間、九州大谷短大演劇放送コースの開設に協力、非常勤講師として多くの学生を指導した。ほかにも舞台芸術学院、劇団東演、劇団昴、桐朋学園短大音楽科などで講師をつとめ、後進の育成につとめた。

'85 (著) 『芝居ばかりが芝居じゃない』 (晩成書房)

1986 (昭和61) 年「鉄鉢の会」を結成。

'86, 88 (演出) 鉄鉢の会 宮本研作「うしろ姿のしぐれてゆくか」

1991 (平成3) 年には日本演劇学会「演劇と教育」研究会の創設に参加、のち会長として今日まで会の発展に尽力した。

'97 (共訳) ベネディティ著『スタニスラフスキー伝 1863-1938』 (晶文社)

'01 (共訳) ベネディティ著『演技——創造の実際』 (晶文社)

日本演劇学会理事、日本心理劇学会理事、日本演劇教育連盟顧問などもつとめた。

2003 (平成15) 年12月31日、直腸癌により逝去。享年76歳。